

## 1 治安情勢

2015年上半期の検察庁による犯罪統計の結果、総被害認知件数は前年比1.2パーセント減少したものの、強盗・恐喝・ひったくりの犯罪については16.7パーセント増加しており、邦人居住区であるサンティアゴ市東部地区の住居に対する強窃盗事件が28パーセント増加しました。

アンディマーク社による国民に対するアンケート結果では、43パーセントの家庭が盗難被害にあった、もしくは同未遂被害にあったと回答し、前回の40.2パーセントを上回る結果となっていることから、引き続き盗難被害に対する注意が必要です。

また、爆弾を使用してATM機を破壊の上、現金を強取する事案は本年になって減少しましたが、自宅の門が開くの待っている車両が数人の強盗により襲われる強盗（ポルトナソ）が増加するなど新手の手法の犯罪が増加傾向にあります。関係当局も強盗の手段がより凶悪になっていると言及しており、チリ在住の邦人だけではなくチリ国民の治安に対する不満も高く、チリ政府に対する治安対策の遅れが大統領支持率にも大きく影響しています。現在、チリ政府は法定刑の引き上げなど犯罪の厳罰化を図る法案を審議中ですが、治安情勢の改善は早急には見込めない状況です。

## 2 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

(1) 7月18日(土)午後23頃、サンティアゴ市ビタクラ区のビタクラ通りのBAR店内に拳銃を所持した2人組の強盗(未成年風)が押し入り、店内にいた客からハンドバッグ、携帯電話を奪い逃走した(この間3分)。

(2) 7月18日(土)午後23時15分頃、サンティアゴ市ビタクラ区ルイス・パステウル通りの店舗に車両が突入し、高級衣類及び時計を盗み逃走した。また、午前0時頃に同区のアメリコ・ベスプシオ通りの店舗も同様の被害にあった。

(3) 7月18日(土)午前0時頃、サンティアゴ市ラ・フロリダ区の実家にサッカーチリ代表選手が子供を預けに行ったところ、3人組の強盗に拳銃で脅された。実家の父親が護身用の拳銃(登録済み)を2発発砲したところ、犯人は逃走した。

(4) 7月19日(日)午後9時頃、サンティアゴ市ラス・コンデス区のレストランに拳銃を所持した2人組の強盗が押し入り店内の客から携帯電話等を奪い逃走したが、携帯電話にGPS機能が付いていたことから警察により18歳と13歳の犯人が逮捕された。

(5) 8月1日(土)午後2時30分頃、バルパライソ市セラノ通りを歩行中

の老人男性に若者2人が走り寄り、引き倒して所持品を奪って逃走した。

(6) 8月9日(日)午前8時30分頃、サンティアゴ市ラス・コンデス区のスーパーマーケットに8人組の強盗が押し入り、警備員をスタンガンで倒し、2台のATM機を爆発させて中から現金ボックスを奪い、威嚇射撃やマキビシを使用して逃走した。

(7) 8月18日(火)午前7時頃、サンティアゴ市キリクラ区の子検場において開始時間を待っていた男性が、覆面をした強盗に襲われた。被害者はクラクションを鳴らすなどして抵抗したが、気づいた警備員に対して拳銃を発砲して威嚇し、被害者の足を撃って車両を奪って逃走した。

(8) 9月2日(水)午前6時45分頃、大統領府警備班先遣隊5名が、警察のトラックをサンティアゴ市内の高速5号線にあるガソリンスタンド内の駐車場に停めて、店舗において朝食をとっていたところ、トラック内部から銃2挺、通信機器などを盗難に遭った。防犯カメラを確認するとトラックに盗難車が横付けし、後部窓ガラスを割って奪われていた。

(9) 9月8日(火)午後5時頃、サンティアゴ市ラス・コンデス区のショッピングモール内のルイ・ビュトン店舗に6人組の強盗が押し入り、店員等を脅して総額42,000,000ペソ相当の商品を奪い逃走した。

(10) 9月9日(水)、サンティアゴ市センターの宝石店に4人組の強盗(内2名が未成年)が押し入り、5,000,000ペソ相当の貴金属を奪ったが、現場に駆けつけた警察官と撃ち合いになり3人が逮捕された。

(11) 9月14日(月)、サンティアゴ市インディペンデンシア区において、被害者女性が自宅前で門が開くのを待っていたところ、覆面をした3人組(未成年)に車を取り囲まれ、下車するように脅された(ポルトナソ)が、抵抗したところ犯人は逃走した。同日、サン・ベルナルド区においても同様(ポルトナソ)の手口で4人組の強盗に銃で脅され車を奪われた。

### 3 テロ・爆弾事件発生状況

9月11日(金)(軍事クーデター日)午後7時頃、サンティアゴ大学前の過激な一団が通行を遮断し、警察の車両に火炎瓶を投擲した。同日午後10時頃、サンティアゴ市サン・ベルナルド区において、暴動を鎮圧していた警察官が左膝に拳銃の発砲を受け骨折した。また、ビジャ・フランシア地区でも警察の機動隊に対し、拳銃の発砲や火炎瓶の投擲が行われ、警察官1名が大腿部を撃たれ負傷した。ロ・プラド区では、乗客が乗っているバスの窓から火炎瓶が投げ込まれたが、警察官により消化された。他に消防署、スーパーマーケット等が襲撃されたり、各地でバリケードが築かれるなどの騒ぎが発生した。

#### 4 薬物事案

(1) 7月18日(金), サンティアゴ空港税関で, 航空郵便でカナダからサンティアゴ市プエンテ・アルト区とプエルト・ナタレス区の居住者宛てに送付された郵便物に合成麻薬(NBOMe)が合わせて15,400服分発見された。税関では, 昨年と比較して5倍の押収量であると報告している。

(2) 9月7日(月), 刑事警察庁(PDI)は922キロのマリファナとコカイン(10,000,000ペソ相当)をコピアポ市内で押収した。4ヶ月前から内偵捜査をしており, 6人を逮捕(1名はコロンビア国籍)した。同時に銃, 弾薬, 防弾チョッキ, 49,000,000ペソを押収した。

#### 5 主な邦人被害

(1) 7月21日(火)午後7時30分頃, サンティアゴ市プロビデンシア区に所在する邦人が経営する事務所に4人組の泥棒が窓を破壊して侵入し, 貴重品が入った鍵のかかった机を破壊して物色したが, 何も盗らずに逃走した。

(2) 8月15日(土)午後1時頃, 首都圏地下鉄1号線車内において邦人男性が手すりにつかまって立っていたところ, 上着のポケット(ファスナーを閉めていた)からパスポートを何者かにスリ盗られた。

(3) 9月1日(火)午後8時05分頃, 邦人女性旅行者2名がバルパライソ市の飲食店から出てきたところ, 40歳くらいの男性が後方から接近し, たすき掛けしていたハンドバッグを力づくで引きちぎり奪って逃走した。

(4) 9月6日(日)午後2時頃, 首都圏地下鉄1号線ロス・エロエス駅近くの路上を邦人男性旅行者が歩いていたところ, 「鳥の糞が付いているよ。」と老人男性に声をかけられ, 上着を見ると何かの液体がかけられていた。肩にかけていたバッグを下ろすと間もなく女性が近づいてきて拭き始め, 更に数名が手伝っていたが拭き終わって立ち去った時に貴重品を入れておいたバッグを盗られていた。

(5) 9月19日(土)午前8時頃, ロ・バルネチェア区のカソリンスタンド併設のコンビニにおいて邦人男性と息子が買い物をしていたところ, フードをかぶった2人組の強盗が侵入してきた。拳銃を所持した犯人Aがレジの店員に対し現金を要求し, もう一方の犯人Bが邦人親子に近づき現金と携帯電話を要求してきた。親子は素早く店外に逃げたところA, Bともコンビニの外に出てきたがカソリンスタンドの現金を奪うため従業員と暫くもみ合いになり, 拳銃を使用せずに走って逃走した。

(6) 9月22日(火)午後1時05分頃, サンティアゴ市ラス・コンデス区の飲食店に邦人4人で入店し, 被害者が財布の入った上着を椅子の背もたれに掛けて座ったところ, その後ろの席に男女2名が座ってきて, 上着から財布を

盗んで何もオーダーせず（約3分）に退店していった（防犯カメラ確認）。

（7）9月24日（木）午前11時20分頃、邦人女性がカラマ市の中央公園で行われていたイベントを観覧中に上着を脱ぐためリュックサックを下ろしたところ、2組の男に話しかけられ写真を撮るためと勝手に下ろしたリュックサックを動かされた。すぐにリュックサックを取ろうとしたところ、また話しかけられたので一瞬気を取られている隙に盗られてしまった。

（8）9月24日（木）午後6時頃、邦人女性旅行者がカラマ市内の広場（カテドラル）においてチョコレートドリンクを頭からかけられた。拭き取ると見せかけて接近してきた男女3名にパスポート等貴重品在中のリュックサックを盗難に遭った。

（9）9月25日（金）午後3時頃、邦人女性旅行者が友人と二人でバルパライソ市内を散策中、3人組の犯人が近づきパスポート等貴重品在中の肩掛けカバンをひったくり逃走した。

（10）9月26日（土）午後1時頃、邦人男性が混雑していた首都圏地下鉄1号線車内において財布等在中のファスナー式のショルダーバッグを肩にかけていたところ、左側背後から女性に話しかけられている間に右側背後にいた男性に財布をスリ盗られた。